

2015-11-30 (東京ウィメンズプラザ) シンポジウム

高校保健・副教材にみる専門家の倫理と責任—データ改ざんと出産誘導<sup>1)</sup>

**改ざんグラフを持ち込んだ**

**吉村泰典内閣官房参与と**

**関連専門 9 団体への質問状**

田中 重人 (東北大学) <http://tsigeto.info/15w>

# 研究倫理とは

- 社会からの信頼と負託
- 不正への対応
- 相互批判

(資料 1, 2, 3)

# 学校教育の改善求め要望書提出

本会・日本産科婦人科学会など9団体

1月下旬、本会を含む「日本婦人科腫瘍学会、日学際的9団体（日本産科婦人科学会、日本産婦人科医学、日本産婦人科医学会、日本生殖医学学会、日本性衛生学会、日本周産期・新生児医学会、

日本婦人科腫瘍学会、日本女性医学学会、日本思春期学会、本会）を代表して、吉村泰典内閣官房副大臣に「学校に

おける健康教育の改善に関する要望書」が手渡された。要望書は主として、中学校・高等学校における学習指導要領の改訂を求めたものだ。

逃し、子どもを持ちたいという希望がかなえられない方が多くいます。（中略）医学的に正しい知識を、教育課程の中で提供していくことが、人々の希望の実現に不可欠なついでに、としました。

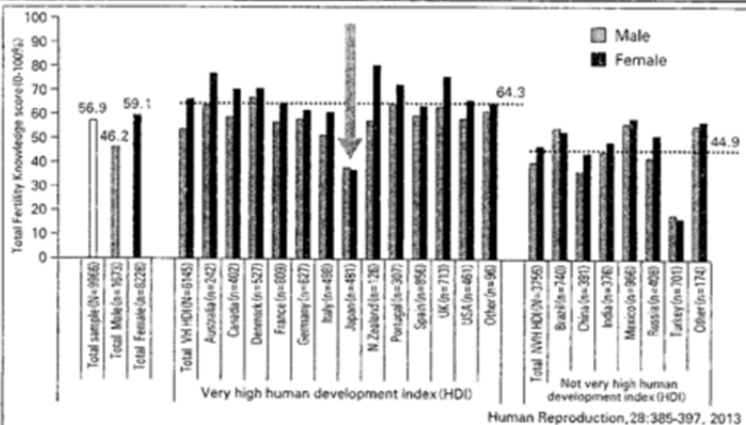


図2 妊娠・出産に関する知識(国・男女別) (要望書・参考資料より)

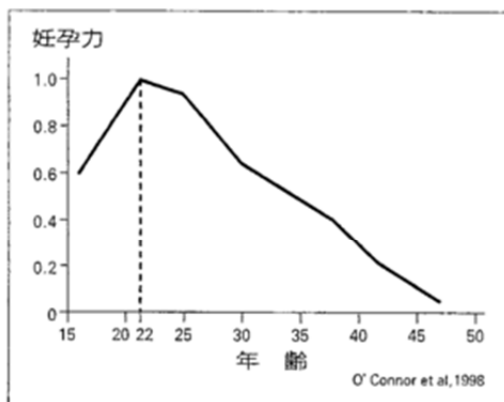


図1 女性の妊孕力(妊娠しやすさ)の年齢による変化 (要望書・参考資料より)

【要望】

学校教育では、その時代に必要とされる教育内容を求めることが重要です。我が国の少子化や人口減少が深刻化している今日、医学的観点からも健全な家族形成が促進できるよう、妊娠・出産の適齢期やそれを踏まえたライフプラン設計について十分な教育内容としていただきたい。

そのため、青少年教育の基礎となる中学校、高等学校の教科書に記述されるよう、学習指導要領において、必要かつ最新の正しい内容を掲載していただきたい。あわせて、副教材にも同様の内容を盛り込んでいただきたい。

要望書より一部抜粋

近年の顕著な晩婚化・晩産化により、第1子出産時の母の平均年齢はこの30年でおよそ4歳上昇。年齢が高齢化すれば、女性の妊娠する能力は低下する(図1)。さら

「子どもを生み育てたい」という希望がかなうためには、正しい知識に基づき判断できることが必要」と、現在の社会状況に合った学校教育の改善を求めている。

さらには、妊婦・不妊症となる確率や妊産婦死亡率、出生児に染色体異常が起る確率などは上昇する。要望書では、「結婚や妊娠・出産は、個人の選択によるもの」とした上で、「子どもを生み育てたい」という希望がかなうためには、正しい知識に基づき判断できることが必要」と、現在の社会状況に合った学校教育の改善を求めている。

9団体は教科書の編纂を行う際などに関して、医学関係者による最新の知識を要する場合は、責任を持って協力する旨も表明している。

日本家族計画協会  
『家族と健康』  
2015年3月号

# 何が問題か

- 吉村泰典 「長年広く使われてきた」  
(8/25 毎日新聞)
- 日本生殖医学会 理事長コメント (9/7)

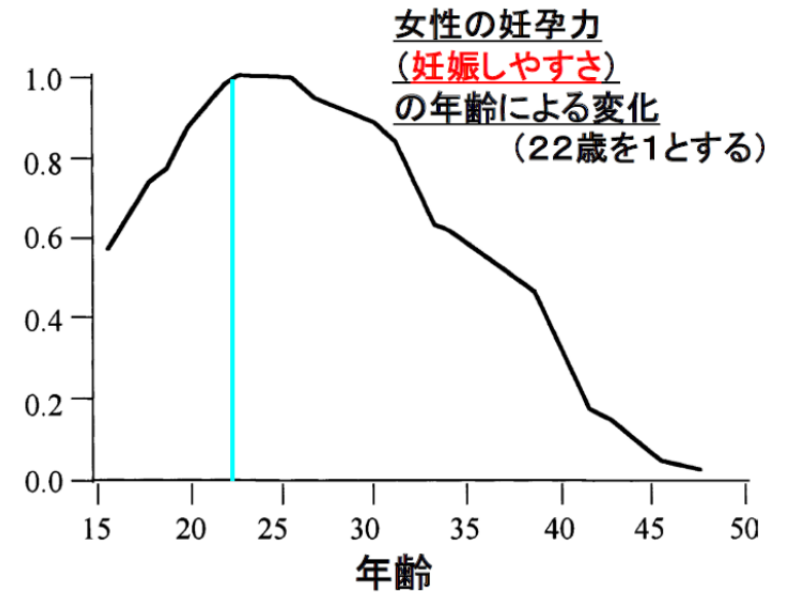
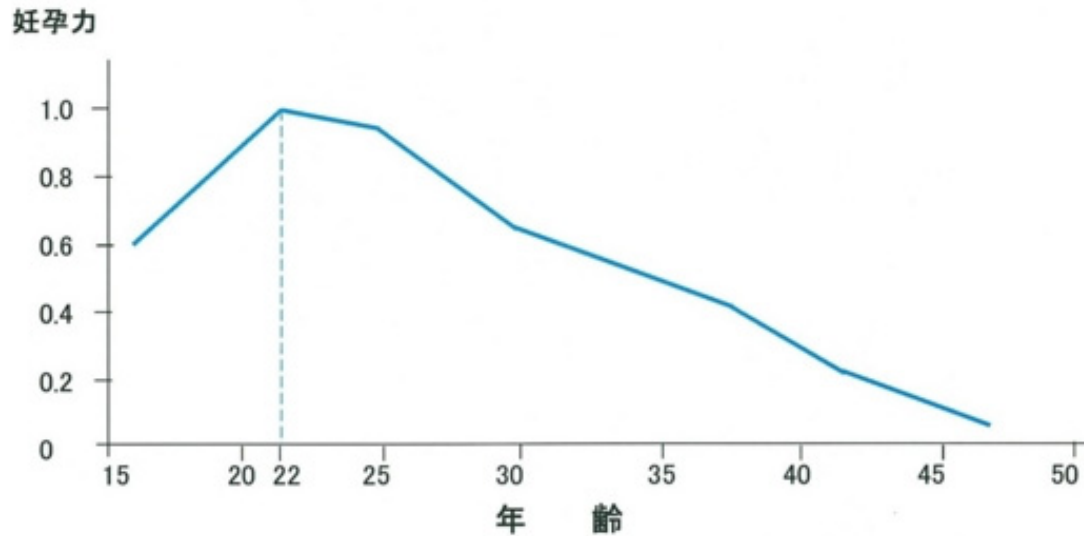
# 質問状

- 要望書を出した 9 団体
- 吉村泰典
- 北村邦夫

# 質問状の内容

- 不正に対する意識と制度
- 事実関係
- 一連の文献について

# 「長年使われてきた」？



(O'Connor et al. Maturitas 30; 127-136,1998) 7

吉村やすのり (2013)

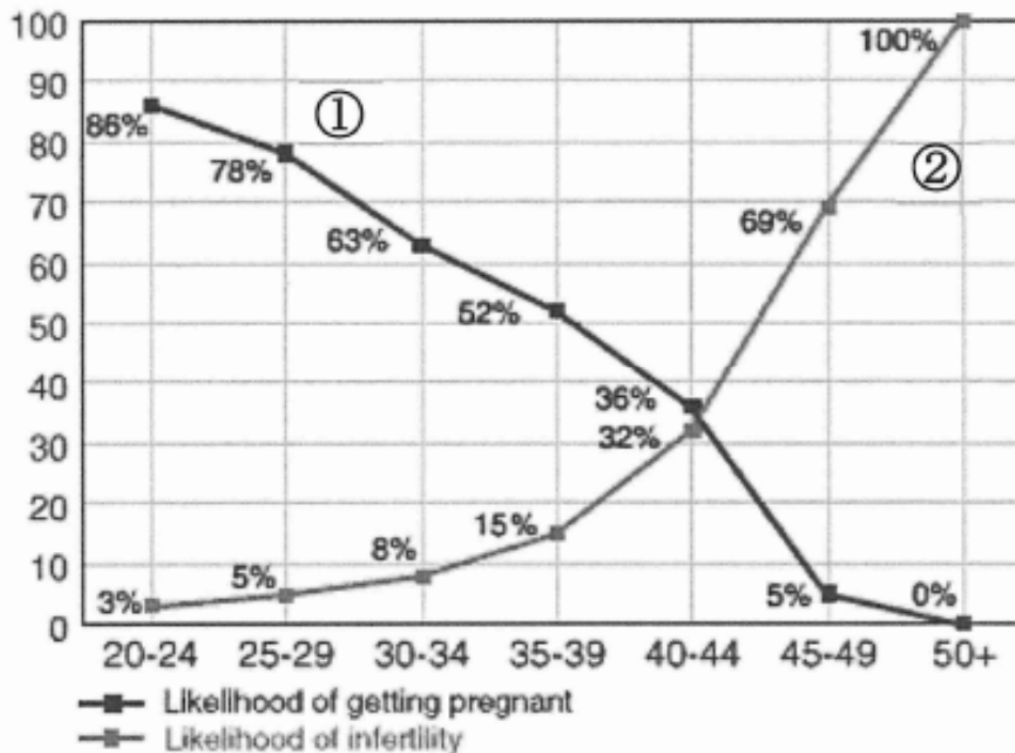
齋藤英和 (2015)

# 類似の事例

## (資料 5)

①の右下がりの折れ線グラフは、100組のカップルが1年間避妊せずに性生活を送った場合の、女性の年齢ごとの妊娠確率を表しています。つまり、女性の年齢が20-24歳の時、1年間避妊しないで性生活を送った100組のカップルの内、86組が妊娠するという事です。

一方で、②の右上がりの折れ線グラフは、女性の年齢別の、不妊の人の割合を表しています。



グラフ:M. Sara Rosenthal. The Fertility Sourcebook. Third Edition.

グラフを見たうえで、もう一度おたずねします。

問5 グラフを見た後、妊娠、出産についての意識が変わったと思いますか。

1. はい      2. いいえ      3. わからない



**Table 1.1 Fertility Through the Ages\***

Age	Likelihood of Getting Pregnant*	Likelihood of Infertility
20–24	100%	3%
25–29	94%	5%
30–34	86%	8%
35–39	70%	15%
40–44	36%	32%
45–49	5%	69%
50+	0%	100%

Source: Adapted from Khatamee, Masood, M.D. "Infertility: A Preventable Epidemic?" *International Journal of Fertility*, vol. 33, no. 4 (1988): 246–51.

\*Presuming optimum health

(資料 4) Rosenthal (2002) *The fertility sourcebook*. P. 5

# Carcio (1998)

**TABLE 2-5**

*Probability of Pregnancy With Advancing Age*

Age Group, Years	Percent Conceiving Within 12 Months
20–24	86
25–29	78
30–34	63
35–39	52

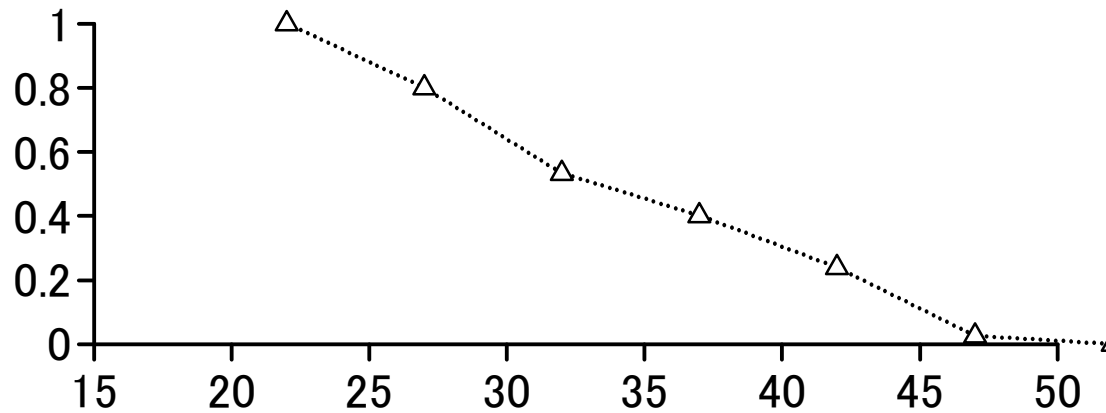
(資料 6) H. N. Carcio (ed.) (1998)

*Management of the infertile woman*. Lippincott. P. 39

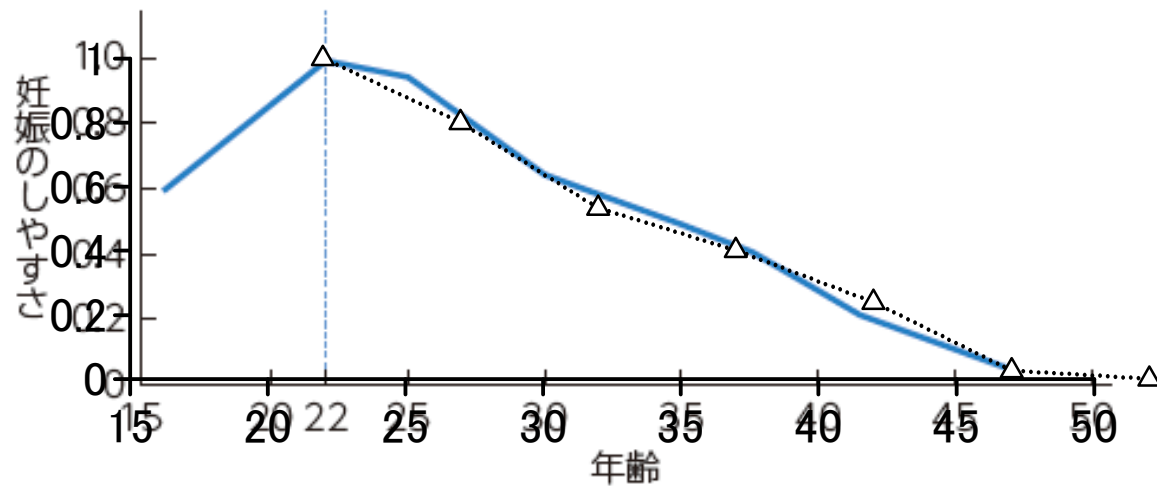
# 月あたりの確率に変換

**年齢:** 20-24 25-29 30-34 35-39 40-44 45-49 50+

<b>年間:</b>	86	72	63	52	36	5	0
<b>月間:</b>	15	12	8	6	3.6	0.4	0



# 副教材改竄グラフとの一致



# 倫理違反を放っておくと

- まちがった知識
- まちがった意思決定
- 研究対象の人権侵害
- 権力との結託

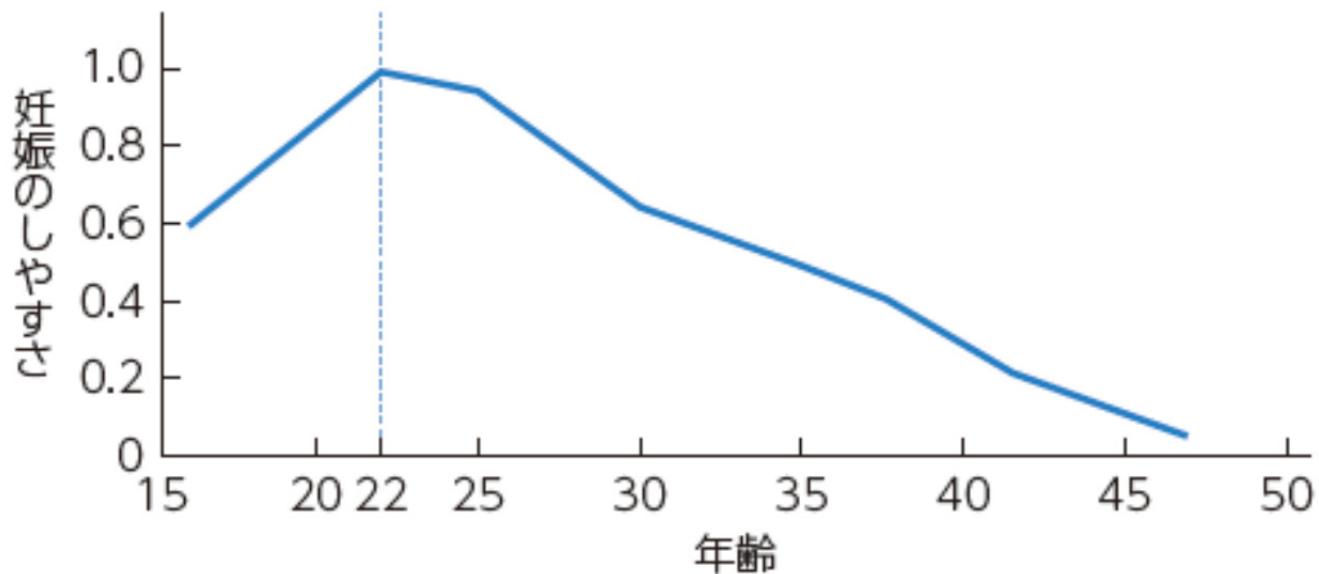
# 対抗するために

## ■ 妊娠のしやすさと年齢

文部科学省 (2015)

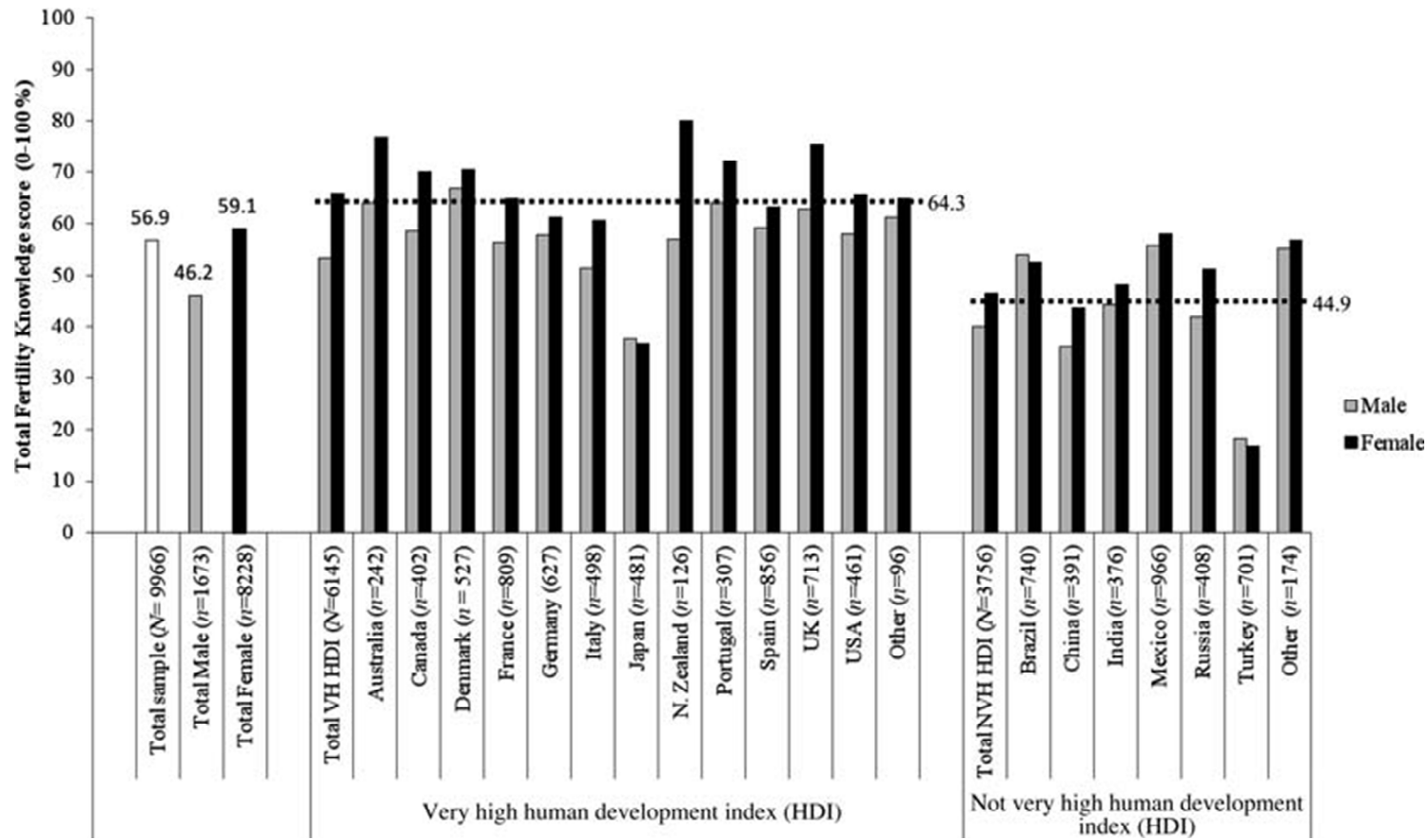
『健康な生活を送る  
ために』

女性の妊娠のしやすさの年齢による変化



22歳時の妊娠のしやすさを1.0とする

(O'Connor et al. 1998)



Bunting et al. (2013) *Human Reproduction*. 28(2):385-397

# だまされない

- データが隠蔽されていないか
- 研究過程の具体的想像

→ 契約をまもらない相手への対処